

県民の皆様へ

Q ; 発熱などがあっても、すぐには医療機関には行かないようにと言われていますが、不安です。

A : そうですね。今の政府の基本方針としては、今後、地域で流行拡大が認められる際には、重症患者にしっかり医療を提供できるようにするために、37.5 度以上の発熱があつたり、咳やのどの痛みなどの風邪の症状や身体のだるさなどがあつても、軽症では自宅療養とされています。しかし、インフルエンザなどの疑いある場合は、事前に医療機関にお電話の上受診をしてください。現在、宮城県では流行はしていない状況ですが、いつもなら受診しないぐらいの感じの症状でしたら、すぐに医療機関には行かずに、家で様子を見るのがよいと思います。なお、感染が予め特定できない中では、インフルエンザの検査（検体採取）は行わず、臨床診断のみで治療薬の投与を行う場合もあることが日本医師会、厚労省との間で了解されていますので、ご理解ください。

Q ; すぐに受診しないように勧める理由は何ですか。

A : 新型コロナウイルス感染症が地域で流行している場合、軽症の方がたくさん医療機関に受診されると、高齢者や持病がある方で重症化しやすい患者さんをしっかり診療できなくなるためです。また、院内での感染を防止する意味もあります。

Q ; 何となく分かりましたが、家で静養しても改善しないときはどうしますか。

A : まず、新型コロナウイルス感染症に関する一般健康相談窓口（いわゆるコールセンター）に電話してください（電話番号は、022-211-3883 で 24 時間対応）。そこで必要ならば、帰国者・接触者相談センターへ繋いでくれます。さらに必要な場合は、帰国者・接触者外来（非公開）へ紹介され、PCR 検査が施行されることもあります。

Q ; もしそこで PCR 検査が陽性だったら、入院ですか。

A : 流行拡大していない現時点では、残念ながら、そうです。現在、8 割の方は、軽症で治るとも言われていますが、1 週間くらいから重症化する場合もあり、経過観察が必要です。また、他の方への感染を防止する意味もあります。

*入院に関しては、流行拡大した場合は、重症の方だけが入院となるなど対応が変わる可能性があります。

Q ; かかりつけ医に相談するのは、どうですか。

A : それもありです。ただし、この場合も、あくまでまず電話相談です。直接来院された場合は、医療機関内での隔離または、外で（車の中などで）待機していただく場合もあります。院内感染を防ぐためです。

Q ; PCR 検査は保険適応になったと聞きました。かかりつけ医で、診てくれてそこで PCR 検査をしてくれれば、一番良いのではないですか。

A : 検査方法は、インフルエンザの検体採取とほぼ同じですから、検査自体は可能です。ただし今回の検査は、感染を防止するために、ゴーグルやフェイスガード、N-95 マスクの装着、ガウンなどの防護策を取って、検体採取を行っています。したがって、それらの備品がない一般の医療機関では行えません。検体採取は、設備が整った帰国者・接触者外来で行います。疑わしい症状がある場合は、前述したコールセンターやかかりつけ医に電話でご相談してください。ただし、今後迅速検査キットなどが開発された場合、一般の医療機関でも検査が可能となる日が来るかもしれません。しかし、現在はあくまでも帰国者・接触者外来で行います。

Q ; 少し理解してきましたが、それではそもそもこの感染症は、それほど怖い病気なのですか。

A : 今言われているのは、8 割は軽症で済むが、重症化したり、重篤になる方もいる、そうした方々は、高齢者や持病のある方とされています。しかし、まだ全体像が必ずしも分かっていません。なぜ、1 週間くらい過ぎて急に容態が悪化するのか（重症化する方々）、効く薬はあるのか（アビガンなど使用中の方もいるが）、感染力の時期や形態はどうなのか、スーパースプレッダーと言われる人たちは何が違うのかなど、まだ不明な点もあるのです。したがって「インフルエンザと何も変わらない、必要以上に怖がる必要はない」というのは全く言い過ぎであり、現在は百害あって一利なしと、考えます。

Q ; 何か少し怖くなってきました。予防方法は。

A : よく言われていますが、頻回の手洗い、咳やくしゃみがある方はマスク着用、人混みに行かない、不特定多数の方々が集まる場所には行かないなどです。また、発熱したり、体調が悪い場合は、会社や学校は絶対に休んで下さい。熱があるのに無理して職場や学校に行き、後に感染が判明した場合、会社や学校に負担をかけることになります。繰り返しますが、熱や風邪症状があるときには、会社や学校に電話をして休んで下さい。会社では、社員に毎日体温を測定して報告させるべきです。一人一人が、危機意識をしっかりと持つことが、最大の予防策です。

Q ; 何か落ち込みますね。明るい話はないのでしょうか。

A : 最近、すっかり忘れていましたが、人類の歴史は感染症との闘いの歴史でした。人類は時に負けそうになりながらも、結局は打ち勝ってきました。今も、迅速診断キット、治療薬、ワクチンなどの開発が、全世界で精力的に進められています。もうすぐに、これらの結果が出て、援軍は来ます。それまで、今はまさに辛抱の時なのです。東日本大震災を経験し、乗り越えてきた私たち東北人は辛抱強く忍耐し、この難局を乗り越えていきましょう！